

提供年月日：令和7年（2025年）9月30日
所属名：滋賀県立美術館
担当者名：小松（広報担当）
連絡先：077-543-2113
E-mail：museum@pref.shiga.lg.jp

県立美術館と県立東大津高等学校との連携事業 ～「対話鑑賞を用いた作品研究」を初めて実施し、 代表の生徒が県立美術館でファシリテーターに挑戦します！～

1 概要

県立美術館と県立東大津高等学校とは、徒歩で5分程度の近接した位置関係にあることを生かし、令和5年度から連携した取組を始めました。令和7年3月12日には、さらなる連携の深化を図るため、連携協定を締結しました。

協定締結後の令和7年4月には、高校1年生全員（約320人）を対象に、常設展での「対話鑑賞」や美術館見学など含んだプログラムを実施しました。

今回、この「対話鑑賞」を体験した高校1年生全員を対象に、新たに「対話鑑賞を用いた作品研究」を実施し、代表者4名が、10月1日（水）、2日（木）に県立美術館で対話鑑賞のファシリテーターに挑戦します。なお、「対話鑑賞を用いた作品研究」は、県立東大津高等学校の総合的な探究の時間のプログラムの一環として計画され、県立美術館と連携し構築しています。

2 「対話鑑賞」および「対話鑑賞を用いた作品研究」とは

「対話鑑賞」	常設展の展示品の中からファシリテーターが選んだ作品を、ファシリテーターのガイドのもと、参加者が作品から気づいたこと、気になったことを言葉にしながらか楽しむ鑑賞方法です。 いろいろな人たちと対話をしながら鑑賞することは、ひとりで作品を見るのとは違った発見や作品のみかたがでできるとして注目を集めており、県立美術館ではこれを昨年度から、開館中の毎週土日に、研修を経た当館ボランティアがファシリテーターを務める形で実施しています。 なお、高校1年生全員を対象に実施した「対話鑑賞」では、県立美術館の学芸員がファシリテーターを務めました。
「対話鑑賞を用いた作品研究」	まず、生徒の皆さんが、自らのタイミングで県立美術館に来館し、作品研究を行う作品を選びます。そして、「対話鑑賞」の体験を生かし、各自で作品研究を行い、その内容を授業の中でプレゼンテーションします。最後に、対話を通して他者の考えと比較することで、自分の考えについて深めていきます。 このプロセスを通し、主体性の向上や論理的思考力、批判的思考力、創造力、プレゼンテーション能力などを育むことにつながると考えています。

3 「対話鑑賞を用いた作品研究」のプロセス

時系列	内容
9月8日(月)	県立美術館の学芸員が県立東大津高等学校を訪問し、「対話鑑賞」で学んだ作品のみかたを生かしながら作品研究を行うためのレクチャーを行いました。
9月13日(土) ～18日(木)	生徒の皆さんが県立美術館に来館し、開催中の常設展「滋賀県立美術館 滋賀県立琵琶湖文化館 名品選」、「SMoA コレクション第Ⅲ期 名品選」に展示されている約70点のうち、事前に県立美術館が選定した12点の中から作品研究を行う作品1点を選定し、各自で作品研究を行いました。
9月22日(月)	各自の作品研究の内容を、総合的な探究の時間にプレゼンテーションを行い、県立美術館で対話鑑賞のファシリテーションを行う代表者4名を決定しました。 
9月24日(水)	代表者4名が県立美術館に来館し、学芸員からファシリテーションのレクチャーを受けました。  
10月1日(水) 10月2日(木)	各日、代表者2名が所属する1クラス(約40名)が来館し、対話鑑賞を2回実施します。1クラスを対話鑑賞に参加する班(約20名)と対話鑑賞を観察する班(約20名)の2班に分けて行います。 ①11:05～11:35 ・代表者のファシリテーションにより対話鑑賞を実施(15分程度) ※10/1の作品はイケムラレイコ《思考》1985年 10/2の作品は安田鞞彦《飛鳥の春の額田王》1964年 ・対話鑑賞を観察する班からのコメント(10分程度)(学芸員が進行) ・美術館からのコメント(5分程度) ②11:45～12:15 ・代表者のファシリテーションにより対話鑑賞を実施(15分程度) ※10/1の作品は小倉遊亀《月》1965年 10/2の作品はイケムラレイコ《思考》1985年 ・対話鑑賞を観察する班からのコメント(10分程度)(学芸員が進行) ・美術館からのコメント(5分程度)

※10月1日(水) および10月2日(木) はすべてご取材いただくことが可能です。